



薬剤耐性 (AMR) 対策！ 私たちができることは？

「AMR」という言葉を聞いたことがありますか？昨年度主要7か国首相のG7サミットが開催され、保健分野で薬剤耐性 (AMR) 対策の強化などを盛り込んだ「伊勢志摩首脳宣言」を発表したことを覚えていらっしゃる方も多いと思います。このAMR対策について私たちに何ができるのか考えてみました。

① 歴史と背景

AMRの概念は今日、新しく認識されたわけではありません。1960年代には、ペニシリンなどの抗菌薬が開発され、細菌感染症はもはや不治の病ではないという認識が広がりました。しかし1980年代以降より病院内を中心に医療技術の進歩に伴う、手術や医療機器に関連した医療関連感染症 (HAI) が増加しました。我が国においても、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) やバンコマイシン耐性腸球菌 (VRE) といった薬剤耐性グラム陽性球菌、次いで、多剤耐性緑膿菌 (MDRP)、多剤耐性アシネトバクター (MDRA) といった**薬剤耐性グラム陰性桿菌による医療関連感染症が広がり、現在も医療機関において大きな問題となりました。**

2015年5月の世界保健総会では「薬剤耐性 (AMR) に関するグローバル・アクション・プラン」が採択され、加盟各国に2年以内の自国の行動計画の策定を求められました。それを受け、厚生労働省より今後5年間で実施すべき事項をまとめた「**薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプラン**」が2016年に6つの分野について提示されています。

② AMR対策アクションプランと当院で実施すべき点 (1~4分野について)

分野	目標	当院での実施
1 普及啓発教育	国民の薬剤耐性に関する知識や理解を深め、専門職等への教育・研修を推進する	全職員に対する 感染研修 (感染講習会等) を充実させ、 個々の知識の向上 を図る
2 動向調査監視	薬剤耐性及び抗微生物剤の使用量を継続的に監視し薬剤耐性の変化や拡大の予兆を適確に把握する	ICT (感染対策チーム) での定期的な 抗菌薬ラウンドの充実 と 処方医師への的確なフィードバック を行う
3 感染予防管理	適切な感染予防・管理の実践により、薬剤耐性微生物の拡大を阻止する	ICTが中心となり、院内感染症蔓延に対する 予防措置をマニュアル化した確に遂行 できるように連携を図る
4 抗微生物剤の適正使用	医療、畜水産等の分野における抗微生物剤の適正な使用を推進する	医療チームで情報を共有し、 抗生剤の内容・容量・投与期間が適切な使用であるか を定期的にカンファランスを行い 評価 していく

参照・引用：厚生労働省HP・政府広報オンラインHP

活動報告

看護部：感染・呼吸器リンクナース委員会

「院内感染対策マニュアル」ミニテスト実施報告

看護部感染・呼吸器リンクナース会では感染防止対策に取り組んでいます。日々活動する中で感染防止に関する知識が不十分で、どうすればいいのかわからなくなってしまうことも多くありました。対策を考えた時、今までは**感染防止に関する知識が詰まっている「院内感染対策マニュアル」**を使えていない事に思い当たりました。利用していないことを反省し、同じように感じている看護師仲間も多いのではないかと思います。そこで**今年度のリンクナース会での活動に「マニュアルを見てもらう事、要点を覚えてもらう事」**を目標とし、委員の協力を得て各部署の看護師に「院内感染対策マニュアル」ミニテストを行う事にしました。その活動を紹介します。

3階東病棟 感染・呼吸器リンクナース委員 南康一

ミニテスト実施月・・・7月、9月、11月 (予定)、1月 (予定)
 問題数・・・5問程度 (各回) 対象・・・各部署の看護師
 7月のミニテスト実施結果・・・回答率100%



➤ ミニテスト問題を掲載しましたので答えてみてください

◆ インフルエンザに感染し自宅で休養している場合を設定

問1：職場復帰できるのは、原則、解熱後 (①) 日間 (解熱剤を使用しない状況で) が経過したら復帰可能である。ただし、発症後 (②) 日目まではサージカルマスクと手指衛生を実施する。

◆ 尿道留置カテーテル患者の対策

問2：尿路の (③) がある場合は、尿道カテーテル使用の適応があるとされている。

◆ 感染性胃腸炎 (ノロウイルス疑い) 患者ケア時の対策

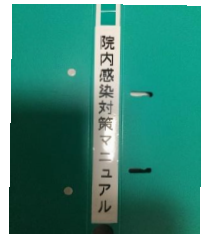
問3：入室時、退出時の手指衛生は (④) で確実に行う

➤ いかがでしたか？みなさん答えることができましたか？

解答：①2、②7、③閉塞、④流水と石鹸



ぜひ一度「**院内感染対策マニュアル**」を開いて読んでみてください。役に立つ情報がいっぱい詰まった1冊ですよ！



地域感染対策研修会のお知らせ

日時：H29年11月2日 (木) 17:30~19:00 場所：6F 多目的ホール
 講師：沖縄県立中部病院 感染症内科 高山義浩 医師
 テーマ：在宅ケアにおける感染症と感染対策 ~2025年に備える~
 感染症診療と院内感染対策に従事され、在宅医療にも取り組んでいらっしゃる先生です。実践に即した感染対策のお話が聞けますので多数ご参加ください。